

令和5年度 第57回 中学生の「税についての作文」

町田税務連絡協議会優秀賞

『「優しさ」で命を救う』

町田市立南成瀬中学校 3学年 渡辺 駆

『交通情報についてお知らせします。』

ついさつき、母の携帯にあるメールが届いた。

「また国道で倒木だつて。」

メールは僕が小学生の頃まで住んでいた伊東市からのものだった。大雨の影響で各地で倒木被害が起きているらしい。伊東市は、森や川等の自然が多く、このような自然災害は珍しいことではなかった。今回は倒木だけで済んだが、最近はこのような災害のニュースをよく耳にする。九州北部では、地球温暖化で線状降水帯が発生し、記録的大雨や、それによる川の氾濫といった自然災害、家屋流失等の人的被害も起こっている。そのニュースによると、政府は被害を受けた地域に陸上自衛隊を派遣し、現在では、災害による被害は、発生当初よりだいぶ解消されたらしい。先日、ニュース番組でその話を聞いた僕は、災害の恐ろしさを知ると共に、政府の対応や陸上自衛隊の活動が、人命を救っていることを改めて実感した。

数日後、僕は学校で税についての学習を行った。その中で陸上自衛隊や消防、警察といった組織も、税金によって成り立っていることを知った。他にも、災害によって被害を受けた方々への補助金や、被災地の復興のための支援にも税金が使われているという。つまり、災害

から助け出された多くの人々と、その人達が復興を願う大切な街は、陸上自衛隊や政府だけでなく、国民が支払う税金によって救われているとも言えるのだ。このことを知って僕は、今まで、強制的に取られるものだと思っていた税金が人々を救い、更には生活を助ける、国民のための国民による支援なのだと再認識した。また、僕達が支払っている税金が生活を豊かにし、時には人の命をも救っていると考えると、嬉しくも感じられた。このことを父に話すと、父は、

「確かに、今まで税金は、強制的に払わされるものというマイナスなイメージがあったけど、自分が払う税金で被災地の人や、自分の身の周りの人の生活を少しでも助けられているなら、税金を『払わされている』だなんて思わないな。」と語ってくれた。

世の中には多くの税があり、税のしくみを知らなければ、税金を払うのが嫌に思うこともあるだろう。だけど、そんな税が何に役立っているのか、どれだけ大切なのかをより多くの人が理解すれば、税というものは、「負担」となる義務から、「優しさ」の詰まった支援になるはずだ。僕達、中学生が税で今出来ることは、まだ消費税を払うくらいだろう。しかし、そのくらいのことでも、どこかで誰かが救われている。税という優しさで、日本の未来は創られている。